

第4回南砺市総合計画審議会
会議録(抜粋)

期 日 平成18年10月23日(木) 午前9時30分から
会 場 南砺市役所福野庁舎 2階講堂
出席者

北田正雄	会長	川合声一	副会長
島田勝由	委員	夏野修	委員
倉一雄	委員	山崎正大	委員
嶋信一	委員	奥野達夫	委員
大西正隆	委員	川合友之	委員
水木猛	委員	齋藤昭一	委員
小林敏夫	委員	藤井貢	委員
米澤博孝	委員	清水壽一	委員
山本秀夫	委員	塚田久俊	委員
鶴野孝徳	委員	寺井孝夫	委員
花島榮一	委員	中藪淳一	委員
渡邊久雄	委員	永井正夫	委員
松本誠一	委員	岩田繁子	委員
		宮本佳子	委員

欠席者

吉岡勉	委員	池部恵子	委員
桜井光雄	委員		

市当局

溝口進	市長	清都邦夫	助役
山本勝徳	収入役	梧桐角也	教育長
中山	市長政策室長	大家	総務部長
向川	民生部長	堀	産業経済部長
畑	建設部長	西村	医療局長
重原	市長政策室次長		

事務局

松田	企画課長	安川	企画課主幹・企画係長
上口	企画課企画係副主幹	松田	企画課企画係主査
池田	企画課企画係主任		

事務局 ★司会進行
 ★配布資料の確認

会長 「おはようございます。第4回の総合計画審議会にご出席いただき、厚くお礼申し上げます。今日は基本計画の素案が出てきました。また、国勢調査に基づく人口の推移も出てきました。基本構想の大きな基になるものですので、今後の取扱いについてご意見を賜りたいと思います。お約束の時間ですので会議を進めたいと思いますが、市長さんにご出席いただきましたので、ご挨拶いただいて始めたいと思います。」

市長 「総合計画の策定につきましていろいろご尽力いただき心からお礼申し上げます。総合計画のほうもそろそろ取りまとめをいただく段階になっているわけですが、19年度の予算編成にとにかく間に合わせていただきたいと思いますのは、19年度から本当の意味で南砺市の本格的な予算にしていきたい、つまり総合計画に基づいた事業を展開していきたいと思っておりますので、いろいろと皆さんのお知恵も拝借したいと思います。関東福野会というのが東京でありまして、出席してまいりましたが、そこに井波会とか城端会、福光会、利賀会とかいろいろあるわけですが、その会長さん方が揃って出席しておられました。私は口をすっぱくして一体化一体化と言っておりますが、一歩も二歩も外の団体がそういうことを進めていることを実感し、ありがたいことだと思っております。総合計画で初めて南砺市としてのいわゆる全般の計画が出来上がるわけですし、難しい問題もありますが、皆さんのお知恵を拝借してまとめ上げ、南砺市として出発したい。こんなふうに思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。」

会長 「議事を進めたいと思います。お手元の第3回の議事録について、皆さん方の意見と違う点などご意見をお聞かせください。特にないようでしたら確認いただいたということで、前へ進めさせていただきます。」

(異議なし)

会長 「ありがとうございました。では意見公募、パブリックコメントについて事務局から説明いただきます。」

事務局 「意見公募、パブリックコメントということですが、例えば前回お示ししました基本計画(案)を各行政センターに据え置く、あるいはホームページで公開し、広く市民に見ていただくということです。11月1日から20日までの20日間公開します。そしてそれらを見られた市民から手紙、メール、あるいはファックス等で質問やご意見をいただく、そういう制度です。これを全部取りまとめまして、一斉にホームページ等を通じて回答します。質問等が揃った時点で審議会においてお伝えします。」

会長 「広く多くの方々から意見を公募し、総合計画策定の一助にさせていただくということで、こうした手法もとられるということで、ご了解いただきたいと思います。それでは次に進めさせていただきます。総合計画の基本計画の素案が配付してございます。この基本計画の素案について、取りまとめいただいた各部長さん、局長さんから順次ご説明をお願いします。」

市当局 「『自然にやさしい住みよいまちづくり』について説明させていただきます。『自然環境の保全と活用』といったことで、現状と課題では5項目ほど挙げております。目指すべき姿ではさらに細かく分け、11項目ほど挙げております。この中で砂防とか急傾斜地対策が出てまいります。南砺市の8割が森林であり、重要だと思っておりますので強く打ち出したつもりです。『循環型社会の構築』ということで、リサイクルやバイオスタウンについて述べております。それから『適正な土地利用の推進』ということから、国土利用計画の策定や行政財産の管理の面から地積調査の推進について述べております。ボリュームとしては少ない気はしますが、具体的な取り組みのところでボリュームを増やしたいと思っております。」

市当局 「『安全で快適なまちづくり』ということで12のテーマがあります。まず一つは、道路交通網の整備です。一番腐心しましたのは、合併してもっとも目に見えるのは道路整備だと思いますので、かなり広範囲に議論しました。目指す姿には、東海北陸自動車道から国道、県道、市道改良など、かなり文言を入れ込んでおりますが、国や県などの要望先があり、かなり議論したところです。次に市街地の整備ですが、街路のほうは今3本進んでおります。それが今後どのように展開し、皆さんに喜んでいただける街路はどのようなものかなど議論しました。用途地域については今4つ持っておりますが、将来的にこれでいいのかということ、南砺市としてはどのような姿がいいのかなど議論しました。情報通信ネットワークについては、現在のIT技術にはめざましいものがありますので、我々としてはできるだけ先取りするような方向で記載しております。消防・防災体制については、主に公共施設の耐震化に議論を集中させたと思います。次に交通安全、防犯体制がありますが、交通安全協会、防犯協会に活躍していただくという表現にしております。克雪・親雪・利雪については、委員さんからのご意見もありましたが、観光分野がかなりウエートを占めるのかなということ、ここは議論を別なところに移し、少し時間をいただいてもう少し文言を増やしていきたいと考えております。良質な住宅、宅地については、古くなった公営住宅の再築を念頭に、議論しました。それから公園、緑地の整備についても現在あるこれらを規模拡大するのかなど、維持管理はどうすればいいのか議論しました。上下水の整備については、五箇山地方を抱えている関係から、水源の恒久的な確保ということ念頭において、どういう方向を目指すかということ議論しました。それから環境衛生対策の充実ということで、斎場や火葬場、墓地等がありますが、現状維持や再築ということ念頭において記載しております。」

会長 「ここまでの説明の中で、ご意見がありましたらお願いします。」

委員 「『各地域において公営の駐車場、駐輪場が整備されており』とあるが、本当に整備

されているのか。」

委員 「『整備されており』で区切るのは確かに委員のご指摘のとおりだと思います。今後駐車場を単独で整備するのは無理があると思いますので、公的な施設の整備に合わせてやったほうがいいのかと思います。例えば商店街、町内会等で駐車場のお話があれば、行政として積極的に支援していきたいという表現にしたいと思います。」

会長 「『整備されており』という表現では整備が完了しているという感じがしますので、まだ整備する必要があるのではないかという意見ではないかと思いますが。」

委員 「『整備を進めており』という表現にすればどうか。」

市当局 「その方向でもう一度検討します。」

会長 「他にありますか。なければ次の説明をしていただきたいと思います。」

市当局 「福祉については、金とか建物じゃなく、将来にわたってやはり人ではないかという観点で検討しました。また、福祉、保健そして医療の連携ということが大切なことではないかということが話の中でありました。『地域総合福祉の推進』ですが、福祉のボランティア活動や地域活動を支援していきたいということで話をしております。地域福祉計画の今年度内の作成に向け進めております。また、いわゆるユニバーサルデザイン化に取り組んでいかなければならないのではないかとすることも話しました。『目指すべき姿』ではいろいろな施策の推進について具体的に記載しております。『児童福祉、子育て支援の充実』について、保育サービスでは保育園の話も出ているわけですが、これは9月議会で保育園審議会条例ができました。具体的にはそこで話がされるということでお願いいたします。子育て支援について、小さな子どもを持つ親に配慮しなければならない、また保育園と幼稚園の連携が望まれているということも表現しています。次に『高齢者福祉の充実』について、高齢者福祉施設があるわけですが、だんだん老朽化しており、多様化するニーズにも対応しなければならないということで、ハードの部分も含めいろいろ検討しなければならないということで記入しています。国の考えは施設から在宅へ移行しているわけですが、その中でいろいろ課題が出てくるのではないかと考えております。『障がい者福祉の充実』のところですが、ここでは障害の害という字をひらがなと漢字で使い分けていますが、固有名詞として決められているもの以外は、市政として『がい』と表現していきたいということです。施設的には南砺市はむしろ恵まれていることや、ノーマライゼーションの理念も大切じゃないかということも話しました。『健康づくりの推進』についてですが、新たな医療制度にあわせた取り組みが必要でないかということです。市の健康プランが今年度中に策定予定ですので、これに基づいて進めていきたいと思います。次に『医療体制の充実』ですが、現在3病院4診療所ありますが円滑な運営には何より医師や看護師の確保が懸案だということです。また公立病院と民間開業医の連携も進めなければいけないとも書いております。『社会保障の充実』ですが、医療で金

を使えば保険のほうで増えるということを勘案した取り組みが必要であること、皆さんが健康であることが一番大切であるという話も出ました。」

市当局 「『心豊かで創造的なまちづくり』ということで、教育委員会が受け持つ分野は人づくりであろうと考えています。教育は100年の計、100年先を見据えてやるべきと言われていています。まず教育の原点は家庭教育にあるということで、家庭教育の支援、あるいは放課後、土日あたりの青少年の教育、そして地域の力を借りて青少年の健全育成に努めていくということです。学校教育については学校の施設の部分、耐震化などよく言われますが、校舎そのものの改築あるいは大規模改修が必要であると思っております。また最近コミュニケーション能力が大人も子どもも弱くなっていますので、それらをサポートする心のケアが大事であろうと考えています。現代のIT社会に対応する学習環境として、パソコンの整備も必要だと考えています。生涯学習やスポーツについては、市民の自主的な活動促進という考えが基になっています。芸術文化の振興では、南砺市には質の高いものがあり、文化団体の組織強化、芸術文化活動の交流促進に重点的に力を配慮していく必要があると思います。これらの主体もやはり市民の方々の、その活動の支援をしていくことを掲げております。文化財についてもたくさんあり、市の指定文化財で200を超えます。これらの保存・継承についてもしかなるべき方法をとっていききたいということです。今南砺市としての統一を図るため、文化財審議会で検討していただいております。最後の『高等教育機関の誘致』ですが、教育委員会では担ぎきれない大きな難しい問題です。現況は高校の再編問題も出てきており、これから誘致に当たってはどのような分野の高等教育機関が適当なのか検討を進めていきたいということで、それ以上は踏み込めないかなと考えております。」

会長 「ただ今の説明について、何かご意見があればお願いします。」

委員 「子育て支援のところで、ファミリーサポートセンターの機能充実と書いてありますが、これが目指すべき姿にも、目標値にも挙がっていませんが、最終的にはやらないのではないかというふうに感じるのですが。」

市当局 「ファミリーサポートセンターはボランティアの力を借りてということですが、目指すべき姿のところで見えないということで、担当課と検討させていただけないでしょうか。」

委員 「これは長い時間が必要だと思います。ファミリーサポートセンターというのはきめ細かな場所、身近な公民館や家庭で支援するのが目的であると思いますので、こういうことには時間が必要ですので、もっと市は計画に入れて実施していただきたいと思います。」

市当局 「趣旨を十分理解しまして、対応させていただきたいと思います。」

委員 「漢字の『害』とかなの『がい』の使い分けはなぜでしょうか。」

市当局 「障がい者の方に対して漢字の『害』というのはきつく当たるのではないかという
ことで、ひらがなで表現することにしました。」

委員 「配慮はありがたいのですが、内容がはっきり分かるようにするなら漢字にする
べきだと思います。漢字は読まなくても見ただけで意味が分かるわけです。新しい
市としてそういう意思統一というか、ものの見方、考え方がどうなのかなと思っ
てお聞きしました。漢字をあまり自分勝手に使い分けていただくと、読むほう
もそれから教育も混乱するのではないかと思ったもので、この点教育委員会はど
のようにお思いなのか。」

市当局 「漢字はそれ自体意味を表すと思っております。学校で『障がい者』はないと思っ
ております。意識の問題だと思っております。市民の受け取り方、意識をどう持
つかということだと思います。個人的には漢字のほうがぱっと見て分かりやすい
し、障がい者に対する意識というのはまた別な問題だと思います。委員さんの意
見もいろいろお聞かせいただいで決めていけばどうかと思います。」

委員 「今の『障害』の場合、全部かなにすると一生涯の『しょうがい』なのか障害の『し
ょうがい』なのか分からないわけです。読む人はどっちなのだろうかなど。でき
るだけ見てすぐ分かる書き方をさせていただければありがたいと思います。」

委員 「おっしゃるとおり日本の漢字は表意文字といいますか、漢字からイメージを判読
するという特徴があります。そのために『障害』というのは、その『害』の字か
ら『有害獣』『有害物質』『害虫』など、マイナスイメージがあるということで、
市のほうではこの『がい』を使っておられるのではないかと思います。」

市当局 「前回皆様方にお示ししたものはすべて漢字になっていたわけですが、『害』の字を
ひらがなにしてはどうかということで統一しました。地域福祉計画の中ではひら
がなを使っております。先ほどの話にありましたが、『害』という字は、我々は社
会に害を与える存在なのか、ととられるようです。それでひらがなにしました。
総合計画でありますので、委員の皆さんで漢字のほうが分かりやすいということ
であれば、決まりはありませんのでこの会で検討していただいで結構だと思いま
す。」

委員 「たとえば『憂鬱』の『鬱』という字は難しいでしょう。それとうっとうしい感じ
がするでしょう。それでひらがなで『うつ病』と最近書かれています。そうする
と非常にやわらかく感じます。本人にとっては深刻な問題でも、周りから見たら
うっとうしいというふうに見られたらかたないません。だから時代とともに『害』
という字をひらがなにされたのは、福祉についての思いやりを感じたのが私の率
直な印象です。特に若い方には好感を持って見られるのではないかと思います。
施設についてはやむをえないと思います。」

会長 「どの方向がベターなのか、もう一度検討してください。」

- 委員 「そうすると『障がい者福祉施設』は漢字で書くべきじゃないですか。」
- 市当局 「この議論をしていたときに、人を指すときはひらがな、施設とか固有名詞には漢字を使えばいいのではないかと協議をしていたところです。ご指摘の件ですが、固有名詞で障害者福祉施設と考えるか、障がい者の皆さんの施設と考えるかということで、やさしさをこめて後者の表現にしました。委員の皆さんの意見を聞かせていただいて、持ち帰って検討させていただきたいと思います。」
- 委員 「施設の場合は『害』を使ってもよくて、個人の場合は『害』を使うとかわいそうだという、そういうことは差別です。それよりも漢字をお使いになって、その漢字はそういう意味ではありませんということを言われたほうが、よっぽど親切でないかと思います。でも、どちらにしても意味さえ分かればいいのですから、文字というのは、要は心の問題です。」
- 会長 「何人かに発言いただきました。部会で一度検討していただければありがたいと思います。」
- 委員 「高等教育機関の誘致については合併前から関係の町や広域圏で運動を起こされたと聞いております。南砺市としてはたいへん大きな問題であるかもしれませんが、10年間の大きな思いがあるとすれば、もっと突っ込んで具体的な方向を組み立てできなかったかなと気になったわけです。こうした点をもう少し力をかけて対応して、取り組んでいただきたいと思います。」
- 市当局 「先ほども申しましたが、なかなか判断がつかねる大きな問題です。今の時代進学率は高くなっておりますが、進学者数は減ってくるというのが実情です。そういう中、高校の再編が言われておりますが、その状況で高等教育機関をどうするかということになりますと、今ある大学でも経営が困難になってくると言われており、たいへん難しい問題であろうと思っております。これからどの分野の専門学校あるいは大学が南砺市にふさわしいか、その検討を始めたというところで、総合計画は納めていけないかなと思っております。」
- 委員 「耐震化のことで、目指すべき姿に学校を含め避難場所として機能できる施設などを計画的に耐震化すると書いてありますが、指標には10年後に学校施設耐震化率100%と書いてありますが、これには避難場所となるであろう公民館や保育園は含まれているのでしょうか。」
- 市当局 「学校は週5日間子どもたちが安心して安全に学習できる環境でなくてはならないので、これを一番に考えています。これにはかなりの費用と時間がかかります。これが終わった次に地域の公民館、体育館など弱い建物があれば順番でということでご理解いただきたいと思います。」
- 市当局 「保育園についてですが、築40年を越える古いものがあります。9月の議会で保育園審議会の条例を制定しまして、その中で耐震化を検討していくことに

なると思います。ほとんどの保育園は平屋建てで、少しは安心かなという感じです。避難所としての活用は、トイレなど施設としては使いにくいのではないかと思います。いずれにしても子どもを守るという意味では耐震化は検討しなければならない問題であると思います。」

会長 「次へ進ませていただきます。」

市当局 「『いきいきとした活力あるまちづくり』の『農業・農村の振興』の関係ですが、現状と課題では食料農業農村基本計画というのが国で策定されており、基本となっております。農業生産基盤の整備、経営体の育成促進、特産物の振興等を図っていききたいということで、来年度から始まる品目横断的経営安定対策や農地・水・環境保全向上対策にも積極的に取り組んでいきたいということで進めております。『森林・林業の振興』ですが、森林・林業は今たいへんな状態で、来年度水と緑の税として、県のほうで一人 500 円の税を集めて、森林・林業に活用することになっております。これを含めまして、森林生産基盤整備、経営基盤それから林産物生産振興、森林整備の振興、豊かな森づくりの推進という形で進めていきたいと考えています。『水産業の振興』では、これは内水面漁業の振興ということで、南砺市にはイワナやニジマスがありますが、それらの振興について記載しております。それから『商工業の振興』ですが、商業、サービス業の振興それから中心市街地の賑わいの創出、あるいは中小企業の振興、伝統産業の振興の 4 つを基本に、商工業の振興を図っていこうということです。それから『観光の振興』では、観光資源の活用及び連携ということで、市内 6 つの観光協会を早急に一体化し、民間主導型の観光活動の促進を図りたいと思っております。そして南砺市全域を一体とした観光振興対策を強化することを謳っております。つぎに『企業誘致と起業家支援』ですが、先般、市長を本部長として企業立地推進本部が立ち上がりました。現在も鋭意南砺市の企業回りをして情報収集をしながら、企業誘致に力を入れていくことにしております。目指すべき姿として、東海北陸自動車道や北陸新幹線などの広域交通網を活かした企業立地基盤の整備、新産業の創出による企業誘致と雇用機会の拡大を目指しております。『雇用の確保と創出』ですが、就業・雇用対策、高齢者活力の発揮ということで推進していこうということです。」

市当局 「『交流と調和のまちづくり』ですが、どちらかといいますとソフト事業が主体で、市の一体感をどう醸成していくか、あるいは市民との協働、市民主体のまちづくりをどう進めていくかを中心に議論したところですが、まず『市民交流の推進』ですが、ここはイベントの整理統合、新たな交流イベントの展開を目指そうということです。次に『コミュニティ活動への支援』ということですが、地域の皆さん方、町内会・自治振興会が主体となった地域づくりに対する施設面での支援、これは地区公民館を考えております。先ほど公民館の耐震化の話がありましたが、増改築・改修等の機会を捉えたかたちでないと難しいだろうということで、目標数値は挙げておりません。次に『ボランティア活動の推進』ということですが、現在も社会福祉協議会を中心にボランティアセンターの運営をいただいておりますが、ここでは主に福祉の面でのボランティアの関係を中心に記載しております。次に『男女共同参画の社会づくり』ですが、これについては別途、男女共同参画

の計画が策定中で、これとの整合を中心に 10 年後にはこういったことが声高に言われなくてもいい時代が来ているのかなど話し合ったところです。次に『国内外交流の推進』ということで、今、友好交流協会の設置について関係の皆さんと協議をしております。また国内交流団体支援ということで、市民の皆さんの自主性を前面に打ち出した活動展開をお願いしていきたいということです。」

市当局 「国・県でもよく言われますが、『安心・安全』『市民協働』『行政改革』ということが中長期的に見たキーワードでなかろうかと考えています。行政側としては情報を住民に対してオープンにしていこうという姿勢が大切でなかろうかと思っております。行政サービスのところでは、行政センターと担当課の連携が重要視されているという観点に立っております。『行政の効率化』では行政改革も含むと思いますが、広域行政の取り組み、行政改革におきましては行政改革大綱や定員適正化計画に基づく取り組みの実施が大切かと考えています。それから最近では行政評価が重要視されており、導入について検討が必要だと考えています。次に財政の健全化については、交付税が削減されていることや合併の優遇措置がなくなることから、全国的な普通の市に 10 年後はいかなくてもはなりません。それから特に施設が多いということで、不要な市有財産の売却や住民への貸付の検討、施設では指定管理者による運営を進めています。また、税収の確保ということでは、口座振替の推進が一番重要でなかろうかと考えております。」

会長 「これまでの質問についてご意見がありましたらご発言いただきたいと思っております。」

委員 「地域医療について、在宅支援の関係で主な指標が載ってないのですが、載せておいた方が重要施策としてはいいのではないのでしょうか。」

市当局 「これについては関心が高まっておりますが、少し複雑な部分がありますので、お医者さんの意見も聞いて、少し調整させていただきたいと思っております。」

委員 「全体的な話ですが、人口減少問題やそれに伴い空き家も出ております。またこれから定年を迎える人がたくさん出てきます。そこで人口を都会から南砺市へ持ってくるような施策がもう少し書いてあればいいのではないかと思います。」

市当局 「計画の中では就業・雇用機会の確保により、若者や IJU ターン者の定住促進を図っていきたくと謳っております。たいへん大きな問題だと思っております。農業・林業すべてについて働く場所を考えるべきだとも考えております。県でも団塊世代を受け入れる施策を検討されていると聞いております。」

市当局 「『安全で快適なまちづくり』のところでは、側面的な支援として、田舎への移住希望者やセカンドハウス希望者へ住情報の提供や支援について謳っております。」

委員 「市民の声のところに『フランスのナント市との姉妹都市提携』が記載されております。市長以下執行部が整理統合を目指している時期に、市民の声とはいえこのようなことを計画に書くのはどうかと思っております。」

- 市当局 「ご指摘を踏まえ、削除する方向で検討させていただきたいと思います。」
- 委員 「国際交流は南砺市の財産でもあると思います。経緯と相手方がありますので配慮していただき、ケースバイケースで時間をかけて進めていただきたいと思います。国際的な信頼関係を大切にしながら、窓口を一本化していくというところを強調していただいたほうがいいという感じがしました。」
- 委員 「都市計画道路整備について、自然災害に対する認識がどこまでどうなっているのか、防災体制の避難ということはやはり道路だと思います。防災センターの予定も書いてありません。また、消防ポンプや耐震性の貯水槽はなにをシミュレーションしてこれだけの数になったのか、災害時について明確になっていないと思います。」
- 市当局 「消防ポンプについては現存数を基に、もう少し入れたらいいなという希望的数字が 32 です。消火栓や耐震性の貯水槽は消防から示された数字です。自主防災組織は希望値を掲載しております。それから災害に強い体制というのは当然作るべきですが、道路の項目に災害に強い道路を列記するのはいかがかと感じます。」
- 会長 「災害については別な計画がありますので、あくまで総合計画ですので各部門ともたくさんのことを書いておりますので、ご理解いただきたいと思います。」
- 委員 「防災センターの必要性はどうか。」
- 市当局 「防災については別途防災計画を策定しました。防災センターは早急に建設する方向で進めたいと思います。」
- 会長 「まだまだ質問があるかと思いますが、先に進めたいと思います。」
- 事務局 「先に委員さんから質問いただいたことについてまとめておりますので、それについて、部局長から回答したいと思います。」
- 市当局 「『身近な環境の保全』という項目をその内容から『不法投棄』とすればどうかということですが、もともとは『不法投棄』という項目でしたが、検討を加え逆にこのようにいたしました。次に『自然公園等整備』の中に『多くの方が』とあるのを『多くの市民が』にしてはどうかということですが、市内外の皆さんに利用していただきたいということで『多くの方』としております。それから『利用できるよう施設整備』については、ご指摘の通りですので『利用できる施設』に改めたいと思います。」
- 市当局 「『路線バス運行維持対策』について、『助成措置を講じ』とあるのを、ご指摘の通り『支援を図り』に訂正したいと思います。主要地方道改良率ですが、県と詰めた数字ですのでこれは県と相談させていただきます。公営駐車場、駐輪場については現況に即し、整備を促進するような文言に改めたいと思います。都市景観の

部分についても、ご提案を踏まえ修正を検討します。次に防災体制ですが、今ほどの説明を踏まえ、防災センター建設を含め文言を少し訂正させていただきたいと思います。それから『地域ぐるみ除排雪』についてはご提案のとおり訂正します。また、住宅マスタープランは今年策定しますので、このまま『策定に努めます』にします。『環境衛生対策の充実』『克雪・親雪・利雪』についてはご指摘を踏まえ、担当課と相談して文言の訂正・加筆したいと思います。」

市当局 「『保育園の整備・統合』については、先ほど申し上げましたが、保育園審議会において調査・検討されます。幼稚園との連携ですが、『子育て支援』の最後に記載しておりますのでお願いします。それから基本健康診査受診率については担当課と検討させていただきます。医業収支比率ですが現在は83.3%です。地方公営企業年鑑の平成16年度決算によれば、市の平均は94.8%になっており、目標値を95%としました。それから、高齢者の健康増進や病気予防には体育関係との連携が必要ということですが、この点については年度内に民生部で市民健康プランを策定しますし、教育委員会でスポーツ振興計画が策定されますので、この中で推進を図りたいと思います。健康診査の日曜日実施については検討します。それから障がい者福祉が遅れているということですが、むしろ施設面では南砺市は恵まれており、今後は維持管理の対応が必要だと考えています。国では在宅での方向にありますので、ソフト面での対応が必要だと考えています。『医療の充実』については、医師や看護師など医療スタッフの確保が課題です。医療機関の連携についても検討したいと考えています。救急患者の受入率ですが、これは患者の容態によって救急救命士が判断して適切な処置ができる病院に搬送するというので、優秀なスタッフの確保が受入率のアップにつながると考えます。」

市当局 「『学校図書館の充実』のところで、『質の向上』は『利用の促進』に変更したいと思います。『国際舞台芸術活動への支援』という項目を追加します。それから指定文化財の指定について『統一基準による調整』に書き換えたいと考えています。『展示会等での活用』を『民俗文化財の調査・収集・保存に対する理解と継承』に変更したいと考えています。『高等教育機関』の課題部分の書き換えを考えております。『家庭教育・地域教育力の充実』についてはご要望を踏まえ、『家庭教育講座開催』を『家庭教育支援事業』に変更し、施策メニューに『放課後子どもプラン』を入れていきたいと思っております。学校の適正規模や統廃合の問題など、学校については別に審議会が必要であり、そこで検討され具体化されていくと考えております。文化センター、図書館についてですが、ハードについてはなかなか踏み込んだ記述がしにくく、このようになっております。地域の方々からいろいろご意見をいただきたいと思っております。」

市当局 「『山村との交流促進』となっているところは、ご指摘の通り『山村と都市との交流促進』に修正します。それから『商店街』を『商店街組織』にするべきでないかということですが、『商店街』を一つの組織として捉えております。それから、平地と山村地域の不公平があるということですが、計画では平地と中山間は区別しておりませんが、五箇山地方の農業公社に関する農業の近代化ということで、実施計画の中では過疎債や辺地債での事業が表われてくると思います。森林・林業

については、合併前から国・県の補助事業を活用しながら森林整備を行ってきておりますが、今後も進めていきたいと思っております。」

市当局 「ボランティアの課題の点で、『活動内容の低下が課題となっている。』と表現しておりますが、ご指摘を受け、この部分は削除して文章を整理したいと思います。また、ボランティアについては各関係する担当課で把握しており、ボランティア課を設置してはどうかということですが、これは横の連携を取るようにしていくべきでないかというご提言であろうと思っておりますので、行政のシステムの中で対応したいと考えております。」

市当局 「なんとベンチマークですが、これには用語解説をつけていと思えます。この言葉は、測定の水準点、判定の基準や尺度を指す言葉で、指標を設けて目標値を定めるということで使われております。次に農林土木の専門職を増やすということですが、4月から森林政策課を新設し、五箇三村の行政センターには災害にすぐ対応できるよう予算計上をしております。」

会長 「次に人口問題について資料が出ております。事務局から説明してください。」

事務局 「国勢調査の結果が出てまいりましたので、人口推計を再推計しております。合併協議会では平成26年度の人口を約53,000人と推計し、目標を58,000人と設定しておりましたが、平成12年と17年の国勢調査に基づき、総合計画の目標である平成28年度の推計を新たにしました。平成28年度は53,074人、平成26年度では54,100人ということで、推計的には人口の低下が少し緩やかになった感じ。また、平成17年と平成28年では、14歳以下の子どもの数は1,300人減って5,800人、15から64歳までの生産年齢人口は34,500人余りから27,800人余りと、6,600人ほど減り、老年人口は2,800人余り増えるという推計が出ております。富山県でも人口が減少しておりますし、日本の人口も減少に来ております。こうした情勢を踏まえ、合併協議会での58,000人という取扱いについてご意見をいただければと思っております。」

会長 「現況とかけ離れた数字を基本としてもいけませんし、極端に人口を減らしても総合計画の基本となる数字ですのでいかがかと思えますし。事務局で考えている数字を委員の皆さんに了承してもらえばいいのではないですか。」

市当局 「考えていた数字はあるのですが、当初58,000でいこうということも考えたのですが、いろんな努力をして54,000にどれだけ上乗せできるかということで、我々としては56,000で、努力目標も含め提示させていただければと思えます。」

会長 「当局から56,000で決めさせていただきたいということですが、今度の総合計画は56,000を目途にということはいかがでしょう。」

(異議なし)

会長 「それではそういうことで、将来の方向を決めさせていただきます。最後に総合計画の将来像(案)が出ております。これについても説明してください。」

事務局 「今度の総合計画で、市民一体となって取り組み、かつ、南砺市がイメージできるキャッチフレーズがないかということです。近隣に金沢や飛騨という強烈な名前の都市が存在する中で、南砺市をいかに盛り上げ日本の中で位置づけていくかということです。世界文化遺産や世界演劇祭、木彫刻キャンプ、五箇山とか伝統産業、棟方志功といった世界に通じるものを資源として、イメージ付けていくという考えです。また、将来、科学技術や産業の進展ということも打ち出すべきではないかとの意見もあります。これらをもとに、内部の委員会で4つの案に絞らせていただきました。この4つの中から方向性だけでもお聞かせいただければ、次回の審議会できちんとしたかたちでご相談申し上げたいと思っております。」

会長 「4つの案が示されました。持ち帰って十分検討していただき、次回までに一つ選んでいただければありがたいと思います。」

委員 「このキャッチフレーズは、市民の目から見たものか、それとも広く外から見たものなのか。」

事務局 「南砺市を打ち出せるものということで、打ちからも外からもということで捉えております。」

会長 「いろいろと意見が出てくると思いますが、今回は提示だけということで、後日結果を取りまとめてみたいと思います。以上で閉じさせていただきたいと思いません。長時間お疲れ様でした。」

時：12時10分